

---

## Just a small room

ruい-can

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

J u s t a s m a l l r o o m

### 【Nコード】

N 4 3 9 7 J

### 【作者名】

r u i - c a n

### 【あらすじ】

あなたもきつとつんと頷ける、心の栄養になる…かもしれないエッセイ集。

自由に好き勝手に、時には支離滅裂に、言いたい放題言わせていただきます。

本が好きだ。(前書き)

お腹がすいた時にはあなたのお腹を、心がさびしい時にはあなたの心を、きつと満たす：エッセイかもしれない。

小説を書くころと思ったことは、今までも何度かありました。でも、結局垂れ流しにした文章は、私の中で発酵し、新しい何かになれそうです。

それを、この小さな部屋にまとめておきます。

ご自由にお立ち寄りください。

本が好きだ。

本が好きだ。

しかしながら、本の虫、という言葉がある。あの言葉はイマイチ解せない。

くの虫、という響きには、なんだかへりくだっているような、ひれ伏しているような、そんなイメージがある。よって、本の虫、と聞くと、女王様ルックの本に鞭打たれている自分、のような、そういうMな状況が頭の中にわいてくる。

おかしいか???おかしいだろうか?私だけなんだろうか。

本の虫、は、こういう理由でなんだかちよつとだけエッチな言葉に聞こえる。決して文学的な真面目な響きには聞こえない。代わりにいい言葉はないだろうか。

ちなみに本の虫は英語でも直訳本の虫である。A bookworm。そのままだ。アメリカ人の皆さんも、疑問に思ったりエッチに聞こえたりしないのだろうか。謎だ。

読む本のジャンルは様々だ。色々読んでいる... ようで、やっぱり偏っているのかもしれない。先日、本のジャンルを片っ端から挙げていく機会があった。網羅したつもりでも、人が変わればあげるジャンルは変わるもので、私が忘れていたものが次々出てきた。正直驚いた。

人生で最後に読みたい本は、と問われたら、不器用な男性が書いた不器用に愛を語る本だろうか、スリルとサスペンスに満ちた心躍る本だろうか。

その答えはまだ出ない、私はまだ若いから。これからもっとたくさん本と出逢うだろう。それから決めても、遅くはないだろうから。

逆に人生で最初に読んだ本（絵本を除いて、ちゃんとした小説）は、横溝正史だった気がする。並行して小林信彦を読んだ。その合

間に聖書を読みお経を読み（お経なんて翻訳そのものの作業だった）、遠藤周作や北杜夫の方向に走る。

その後は何でも読むぞ、という状態で、古本屋と図書館と母の貯めた本を全部ポロポロになるまで何度も読んだ。小学生だったから夜眠る時間が決められていたのだが、電気を消されてから布団の中で豆電球の明かりで本を読んだ。おかげで、今は視力が悪い。

しかし、本の楽しさを知っている大人になれたことは、環境に本当に感謝するばかりである。

図書館は好きだが、本を借りてきて読むのは実は得意ではない。

本は、家で読むには、寝転がったり、ひっくり返ったり、さまざまなた姿勢で読みたいから、借り物ではだめなのである。

もちろん図書館では、そんなハシタナイことはしない。できない。小心者だから？いや、常識家だから。図書館には座り心地のいい椅子もたくさんあるし、静かな環境もあるから、上手に、お上品に本を読める。家では、家族や犬がうるさい中で、自分の集中力を原動力にして本を読まなければならないので、得意の姿勢をとったりすることが必要なのである。

その際、借り物では、端をピリッと破ったり、クセをつけたりしてしまうと困る。だから、借りてきた本では落ち着いて読めない。

やっぱり本は自分の本がいい。お金もかかる話だから、ブックオフがいいと思う。一冊1000円の本の優秀なこと優秀なこと。二回繰り返しちゃうほど優秀なんである。

これなら、読みつぶしても惜しくない。  
読みつぶす。

そう言う感覚ではまれる本は、時折二冊目を買ったりすることがある。ポロポロになって一冊目が崩壊するのだ。綴じてあるのがばらばらととれてきて、ページがひらひら落ちたりする。

そうそう、私にとって、本と言えばもちろん「文庫」だ。文庫本はサイズがいい。値段がいい。あんな小さな一冊に、凄いドラマが詰まっていたりする。そういうところが大好きだ。

しかしながら、どうしても、単行本を買うことがある。文庫とは使用用途が違うのだ。文庫だと、ダメな時がある。何だと思われるだろうか。

勘のいい人なら気付かれたらろう。そう、風呂だ。風呂に本を持ち込んで読みたいとき、文庫だとすぐ表紙がヨレっとなってしまう。だから、文庫にしない。

風呂に入ってから本を読む、うーん、快感。

ちなみに、本が好きな人に悪人は少ない気がする。どっちかというと、本好きは頭でっかちで、慎重で、面倒くさがりやな一面もあり、・・・というような性格ではないだろうか。まあ、それが私に当てはまるかどうかはわからない。私の友人に多いのは、という話である。本を読みすぎて頭でっかちになっている人なんかは、憎めない。現実より本の中の世界の経験値が高いような人、たまにいます。そういう人と漫画の世界に浸っている人とは、似ているようで全然似ていないと思う。漫画の世界は、比較的登場人物が、ご都合主義である。主人公の好みにぴったりの男性。そんなに好みどおりのやつに次々出逢ってたまるかい。または、嫌いだと思っていたやつが本当はいいやつだというパターン。

恋愛ものに限って言えば、いわゆる少女漫画などと言うやつはほぼ数パターンに収まるのではないだろうか。や、少女漫画詳しくないけれどさ。

漫画より本を読もう。漫画は、想像力が入り込む隙間が狭い。本を読むこと、の大きな意義は、皆さんご存じのとおり、想像力、ひいては創造力を育てること、なんだから。

## ダイエット考。

一昔前はダイエットと言うと、完全に女の領域だった気がする。しかし、今日この頃ダイエットは男女共通の悩みだ。そして、だんだん低年齢化しつつある悩みでもある。

まあ私は低年齢、と言えるほど若くはないが、「痩せられたらなあ」とは昔から思っていた。

最近では、ピリーズブートキャンプや、コアリズムなども流行っているが、結局はどんな手段でダイエットしようとも、継続力がなければ結果はついてこない。しかも、「痩せる」と言うよりは、筋肉がついて締まるという雰囲気だと思う。

基本が細く、しなやかに、華奢になるにはどうしたらいいのか。筋肉が落ちればいい、と思われるかもしれないが、そんな事態になれば基礎代謝が落ちてしまい逆に太る。この辺がダイエットの難しいところだと思う。

今、実家に住んでいる。それもダイエットの妨げだと思う。1人暮らしなどしていると、お腹がすいたら食べる、という必要最低限の食生活などがちになるが、実家にいるとそうもいかない。お腹がすいていようがいまいが、時間になると食事が出てくる。もちろん、ありがたいことなのだが、おやつを食べすぎた日も、忙しくデスクワークをしていて運動不足な日も、かまわず食事が出てきて残すといやな顔をされたりもしちゃったりする。参るなあ。そして何より、母親の作る料理はおいしい。コンビニ飯はもとより、ファーストフード、ちょっとした食堂なんかは全然かなわない。だから、つつい食べてしまう。慣れた味、というやつで、この中にも魔物が棲んでいる。ダイエットを阻止する魔物である。

筋肉がつきすぎなくて、基礎代謝をあげるような、「体操」みたいなのがいいなあ、と思っていた。すると、ちょうどよいのがやっていた。NHKの「みんなの体操」である。たった5分だが、すご

くりラックスする。終盤には、なかなかきつい運動も入ってくる。それを某動画サイトから見つけ出して、お気に入りに入れておいたよし、これですべて運動できる。

ラジオ体操もよさそうだなあ、と、今思った。実際、どうなんだろう。体に本当にいいのだろうか。あれはラジオ体操に参加するために早起することに意義があるのであって、体操自体の意義ってどうなんだろう。

小学生の頃は、「夏休み・冬休みは、旅行など普段行けない貴重な体験をしてくるんだよ」と言われ、一方で「ラジオ体操には毎日行きなさい」と言われた。矛盾していた。

今の子供はどうなんだろう。そんなこと言われるのだろうか。離婚や共働きが普通になった昨今、気軽に「夏休み・冬休みは旅行」なんてわけにはいかないだろう。けれど行く子供は、長期休暇ごとに海外に行ったりするんだろうなあ。時代ですな、時代。差が出てきている。

さて、少しダイエットから話題は逸れたが、ダイエットが必要なのは私たち大人だけではない。子供もそうだし、最近ではペットで肥満なものも多い。ペットの肥満は、単純に寿命を縮めるといふ。

また、ペットも体重が増えると腰痛が起ころう。その腰痛は、ひいては犬の歩行能力を奪うほどにもなるらしい。怖い話である。それから、テレビでたまに見る、体重300kgの人が、200kgダイエットした話。そりゃすごいけど、元が元だからなあ。私だって最初が300kgならできるよ、そのくらい。…なんて、思ってしまうのだ。

まあ何にしる、ダイエットは上手に、効率的に、必要に応じたレベルで行っていただきたい。長生きの時代だから、体を丁寧に使わないと、寿命より前に体にガタがきてしまう。みんなで体を大事にしましょう。

## ヴァレンタインが近い。

バレンタインは好きだろうか。

あんな行事、もてる一部の男衆しか喜ばないと思われがちだが、女子のほとんどは張り切っている。企んでいる。ドキドキわくわくしているようである。

もともとは、大手の製菓会社、ロッテさんの策略だそうだが、あんなにうまくいった例も少ないだろう。

一番わからないのは、ジャニーズの若手アイドルあたりにせつせとチョコレートを贈る乙女たちだ。ジャニーズの若手アイドルたちには、トラック何杯というチョコレートが届く。その中で、自分のものが彼らの手に取られることは、奇跡に近い。いっそのこと、お見合い写真でも送った方が見てもらえる気がする。

それでも、女の子はせつせとチョコレートを作っている。手作りチョコと、買ったチョコレート、もらってうれしいのはどちらか。

安全なのは買ったチョコレートかもしれない。食べてお腹壊したりしてられない。しかし、やっぱり心がこもっているのは手作りののか。

女の子としても、嫌いな奴に手作りチョコレートは絶対やらないだろう。

学生の頃は、バレンタインデーに、なぜか無意味に帰り学校に残っているやつとかがいた。意識しまくりなんである。

今年はバレンタインデーが日曜日だ。そうになると、チョコの売り上げは例年に比べ減るそうである。そりゃそうだ。義理チョコが減るんだもの。

「マイチョコ」というものもあるらしい。つまり、女の子が自分のために買うチョコレートだ。女というものはよっぱど甘いものが好きらしい。「この日は男の子にあげる日なの……!」と言われて

も、「えー、でも、やつぱりー、私も食べたいしー。」とか言いながら、ちゃっかり自分の分も買ってしまふのだ。それも、男の人に贈るものより高かったり量が多かったり。本当におちやめである。このおちやめというのは最大限よく言っているのだからね！女の子の皆さん、せいぜい太らないようにね！

さて、多少悪態ついたところで、一ヶ月経てばホワイトデーというものがやってくる。クッキーやキャンディーをお返しする日だ。知り合いの家では、父が娘にお返しにラーメンをおごる日だという。また別の家では、パパが娘にケンタッキーフライドチキンを山のように入れてくれる日だという。このように、ホワイトデーも色々あるようだ。妙齢のカップルならば、男性が女性にアクセサリーくらい買ったりもしているのだろう。うーん、いいねえ。

あと、最近よくわからないのが、「逆チョコ」というやつ。男なら、バレンタインデーに左右されずに、堂々と告白でも何でもしたらいいではないか。なぜ好きな女性にチョコをプレゼントする必要があるのか。

オペレーションホワイト、ってのもあるな。バレンタインに関係なく、ホワイトデーの日にお世話になった女性にクッキーを配る男性。なんだか時代だなあ、と思ってしまう。

あなたはどんな2月14日を過ごしただろうか。ホワイトデーの企画、立てなければね。

お腹がすいた。

好きな食べ物は、といわれると、ハンバーガー、スパゲティ（パスタ）、ハンバーグ、お寿司、と出てくる。

はい、そうです、子供みたいです。自分でも、お子様ランチかよっ！って突っ込みたくなります。でも好きななんでももの。大人っぽい好きなものは、せいぜいカキフライかな。ガキの味覚なんです。

お腹がすいた。料理は、不得意ではないと思う。作ろうと思えば一通りは何でも作れる。

でも、なんにも作らない。作ろうとしない。面倒なのである。

料理のコツなんかも、知っているほうだと思う。魚は沸騰しているところに入れて、肉は水から煮るだとか、貝の砂出しについてだとか、だしの取り方、白みそと赤みその使い分け、などなど。

しかしそれらが知識として蓄積されていて、実用のものに結び付きにくい。頭が固いのか。年をとってしまったのか。最近やけに応用力がしぼんできた気がする。

年をとったと言えば、食欲も最近イマイチである。お腹がすいた、といって、いざ食べ始めればそこそこでお腹いっぱいになってしまふ。そして、その割に太る。

ところで話は戻るが、その人の味覚が子供か大人か見分けたければ、好きな肉料理を聞くといいという。

『ステーキ』や『焼肉』と答える人は子供。大人は『スキ焼き』や『しゃぶしゃぶ』と答えるという。試してみるといい。

確かにしゃぶしゃぶが好物だという幼稚園児はないだろう。でも、ステーキや焼き肉が好きな大人はいるかもしれない。難しいあたりだ。

最近太りやすいのは、もう基礎代謝が下がる年齢だからだろう。友人みんな下っ腹から怪しくなっている。

あーあ、年をとるのは嫌だなあ。いつまでもお子様ランチを食べ



## 思考する方向（前書き）

人の頭の中って不思議よね。人が何を考えているのかを知りたい。そのためには自分な頭の中を整理しなきゃなんてことを考えてみる。

## 思考する方向

天才って、想定外の事態が起きてても効果的な反応を返せる人間のことだと思ってる。あと、その反応を思いつけるまでの反応速度がどのくらい必要なのか。だから反射的に100点満点中60点をコメントに出せる天才もいれば、少々時間はかかるけど90点以上の反応を返せるタイプの天才もいる。一般人の平均点は40点程度のイメージで。

じゃあ、一般人である自分がその世界に近づくにはどうしたらいいんだろう？ってのが今回考えてるテーマ。思考の反応速度を鍛えるってのは難しい、と言うよりは、何をすれば鍛えられるのかもわからない。じゃあ、もうひとつの方向、90点や100点を取れるようにするには？これも生まれ持ったセンスとこれまでの人生がどうだったかなんて重たいテーマが立ちはだかっているような気がする。

残された道はないじゃないか、なんてことになると思うので常日頃考えているのはコミュニケーションを怠らないこと。頭の中で架空の友人と会話する。ただしその友人は実在の人物、特に親しい人物の方がいい。そして声に出しちゃうと不審者になるのでそれだけは絶対に注意する。自分が何か行ったときにそいつがどう反応するかをシミュレーションして、くだらない会話でもいい、難しい話でもいい。そしてそいつの反応を何通りも考えて、そこからさらに会話を続けていく。その中に正解はあったらどうか？正解を引き出せた時には、普段より素早く気の利いた返答が返せたんじゃないだろうか？それが一般人に残された効果的な反応の返し方のトレーニングになるんじゃないだろうか。

うまくやれば仲間内ではそれなりに頭の回るヤツ、くらいの立ち位置は確保できると思う。不確定要素には弱いので、いつものメンバー以外のヤツが入ってくるととたんに精度が落ちるし、本当に不

測の事態が発生したときにとんでもない醜態を晒してしまう可能性は残るけどね。まあ、その辺は仕方がない、どうせメッキなのだから。

## 思考する方向（後書き）

そんなことをお風呂の中で考えてみた。Nujabesが死んじやった、まだ30半ばなのに。0から何かを作り出す人間ってのはまた違う意味での天才なのだろうなあ。

## 懸賞必勝法

最近懸賞によく当たる。

ちよつとすごいくらい当たる。

1人であたりをせしめていては皆さんに申し訳ないので、懸賞の必勝法をお教えしよう。簡単である。「下手な鉄砲数うちや当たる」ってやつである。どんな懸賞でもより好みしないで、何でも応募すること。これに限る。

それから、『オープン懸賞』というやつではなく、『クローズド懸賞』というやつを面倒くさがらない。バーコードを集めたり、応募券を切り取ったり、それを地道に行う。

そして、なるべくあなたのお住まいの都道府県に限った懸賞などを選ぶ。地域限定はやはり当たる。

そんな著者は、今日家にDSが届いた。牛乳のバーコードを集めた結果である。うれひいなあ。

時折変なものも届く。映画のチケットが欲しくて応募したのに、「石の卵、5個組」という、石でできた卵が5個も届いたりするのだ。重いし置き場にも困るし使用用途も分からない。今も、ベッドの下でほこりをかぶっている。

映画のチケットが届くこともあるが、『1人分』だったりもする。普通ペアじゃないか？こういうのは。1人で行けてことか？それは寂しい。

私は地方に住んでいるのだが、東京のど真ん中の高級料亭のお食事券が届くことも、遊園地のパスが届くこともある。交通費や宿泊費を考えると、マイナスになるのだ。泣く泣く、権利を譲る。

しかし、そういう雑多なものが当たっていくうちに、だんだん自分の欲しいものがもらえるようにもなってくる。ハガキの書き方や、一言感想の書き方もうまくなってくるのだ。ぜひ、めげないでいろんなものを当てて欲しい。

## 命の大切さとは。

皆さんは子供の頃、もしくは大きくなってからでも、「虫取り」をどのくらいして遊んだだろうか。

私はさんざんした。すごくした。アホかというくらいした。

親の影響もある。子供の頃、休日になると、親は自然の中に連れて行ってくれた。

キノコをとって、栗を拾って、サンショウウオにびっくりし、ハマナスの実を採取してお酒を漬け、またたびの実と間違えて家族でござり桐の実をとってきたこともある。結局何にもならなかったな、桐の実は。

そんなふうには山で遊んでいたから虫ともよく触れ合った。気をつけて歩かないと踏んでしまうくらいの殿様バツタの群れに出会ったり、巨大な女郎蜘蛛に息を呑んだり、巨大な水槽の底に3段くらい敷き詰められるほどにコオロギをとってきたり、黒と水色のアゲハ蝶をとってもらって興奮したり。

トンボなんかは、糸トンボ、ギンヤンマ、オニヤンマ、しおからとんぼ、そうそうたるメンバーだが、いずれも触ったことがある。

私の住む地方では、寒すぎてカブトムシはいないとされているが、カブトムシもとってもらった。クワガタムシはたくさんとってもらった。夜に、スイカの皮をしかけておいたところに懐中電灯をもつて見に行くと、わらわらとクワガタムシが群れているのである。

もうそうなるとメスはとらない。角がないからつまんなーい、というわけである。オスばかり採取しては喜んでいた。

さて、そうして採取した虫だが、その場で放してやらないと、必ず死んでしまう。大丈夫なのは案外カブトやクワガタの類で、きれいだと、珍しいと思って大事にしていた虫が、あっさりコロンと死んでしまうのである。

これは悲しい。色々あがく。口のところに水をやって水を飲ませ

て生き返らせようとしたり、蜜の代わりに砂糖を与えようとしてみたり、温めたり、色々するが、虫は決して生き返らない。絶対に絶対に、生き返らない。

この瞬間、人は命のはかなさ、ひいては大切さを知る。これを人間に置き換えた時にも、命は大事だということが理解できる人になれる。

先般の、秋葉原連続殺傷事件、またはその模倣犯の犯人などは、こういう経験が足りなかったのではないだろうか。この事件の犯人は、被害者への謝罪の手紙の中で、「私には、あたたかい家族や友人などがいないので、それを奪われたあなたの気持ちはわからないが」というようなこと（相当まとめてあります）を書いていたそうである。

でも、それでは家族がいない人や、友人がいない人全員が犯罪者になるのか。それは違う。結局、命の大切さを分れなかった、それが犯行原因ではないだろうか。

この犯人が、家族とうまくいかなくても、虫取りをして大事な虫が死んだときに、悲しい、と感じる気持ちを知っていたら。少なくとも、誰でもいいから殺してやる、なんて思わなかっただろう。

みなさんも、何でもいい、花が枯れてしまうことからでも、命の大切さを分れる人間になってください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4397j/>

---

Just a small room

2010年10月8日14時13分発行